

第3章 紀州徳川家の時代

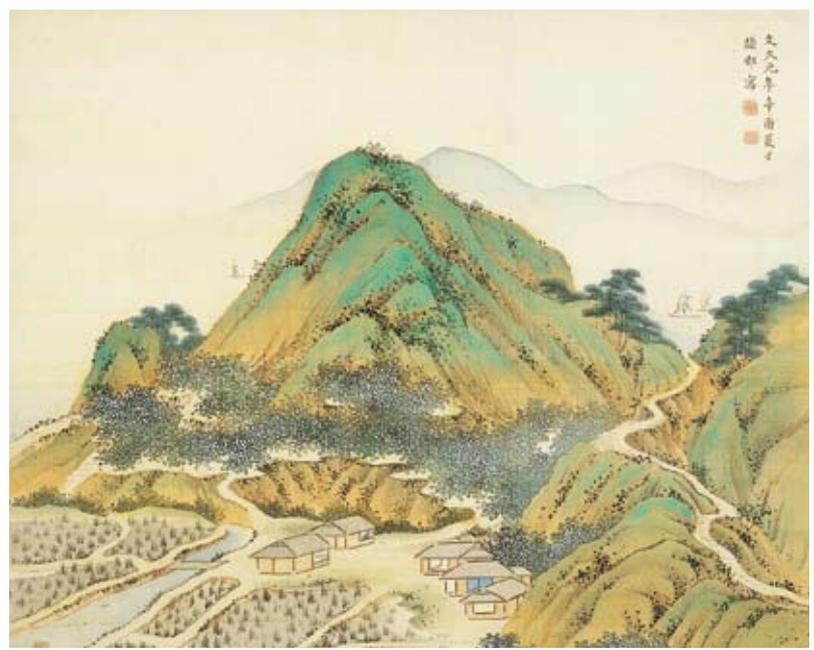


紀州みかん

時代区分	旧石器・縄文・弥生時代
	古墳時代
	飛鳥・奈良・平安時代
	鎌倉・室町時代
	戦国・安土桃山時代
	<b>江戸時代</b>
	明治・大正・昭和(戦前)時代
昭和(戦後)・平成時代	

紀州みかんの起源

紀州みかんがいつごろから栽培されるようになったのか、はっきりしたことはわかりません。言い伝えによると、永享年間(1429～1441)に有田郡糸我莊中番盾岩の神田峯に1本のみかんが自生し、これが各地に植え広げられたという説があります。また、1574(天正2)年に伊藤孫右衛門という人が、肥後国(熊本県)の八代から移植した話は有名ですが、詳しくわかっていません。むしろ品種改良であったというほうがよいかも知れません。



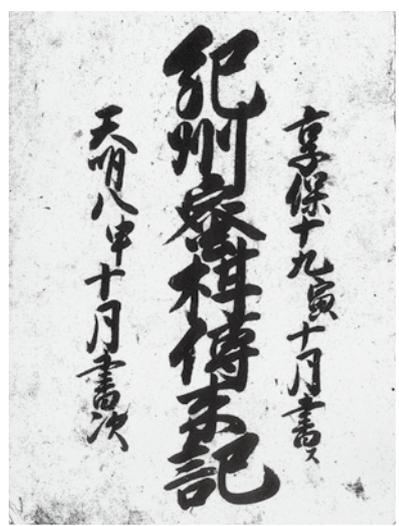
岡本緑郎筆「蜜柑山図」(江戸時代末期 和歌山県立博物館蔵)

1529(享禄2)年に紀州を旅した三条西実隆という公家が日記に紀州みかんをお土産にしたと記しています。また、1580(天正8)年に紀州にいた本願寺顕如上人が、紀州みかん5かごを織田信長に贈った黒印状も残っています。さらに1601(慶長6)年に浅野幸長が実施した紀伊国検地で作られた検地帳にも、みかんの木の数が記されており、16世紀には、すでにみかんが栽培されていたことがわかります。

江戸送りのみかん

大荒れに荒れ狂う海へ船出して、江戸へみかんを運んで大もうけしたという紀伊国屋文左衛門は、元禄年間(1688～1704)に実在した材木商人ですが、詳しいことはわかっていません。

江戸では毎年11月8日にふいご祭といって、鍛冶屋・鋳物師・石工など、ふいごを使う仕事にたずさわる人々がお祭りをします。その時、家の前で子どもたちにみかんを投げて拾わせる風習がありました。また、稲荷社でもみかんまきが行われたといわれます。これらのことからすでに大量のみかんが江戸へ出荷されていたことがわかります。有田や海士のみかん商人は、この行事にあわせて江戸へみかんを送りました。



紀州蜜柑伝来記(和歌山県立図書館蔵)

『紀州蜜柑伝来記』という記録に、有田みかんが江戸へ送られたのは、

1634（寛永11）年に滝川原藤兵衛が400かご余りを送ったのが最初とあります。元禄年間になると25万～33万かごにもなり、正徳年間（1711～1716年）には30万～50万かごになったと記されています。

## 組株とみかん方

有田みかんの生産が盛んになって、江戸への積み荷が多くなってきますと、いくつかの村が集まって、組株をつくりました。1687（貞享4）年ごろには、有田みかん組株19組と海士郡組株4組が定められ、1698（元禄11）年には27組に増えています。

組内のみかんを生産する農民（荷子）から問屋（荷親）がみかんを買い集めました。問屋は、江戸や上方の市場へみかんを送るために、平田船（船底の浅い川船）で有田川を下して川口の北湊へ集めました。集められたみかんは北湊で廻船に積み込まれて運ばれていきました。北湊を出入りするみかん船は、年間50～70艘もあったといわれています。幕末の1851（嘉永4）年には、江戸へ24万6,909かご、尾張へ8万2,560かご、伊勢へ2万301かご、浦賀（神奈川県）へ1万7,634かごを送ったと記録されています。このとき海士郡の加茂谷（海南市）のみかんが、明石や兵庫（兵庫県）、天満（大阪市）、京都、砂川（京都市）へ5万9,151かご送られていました。

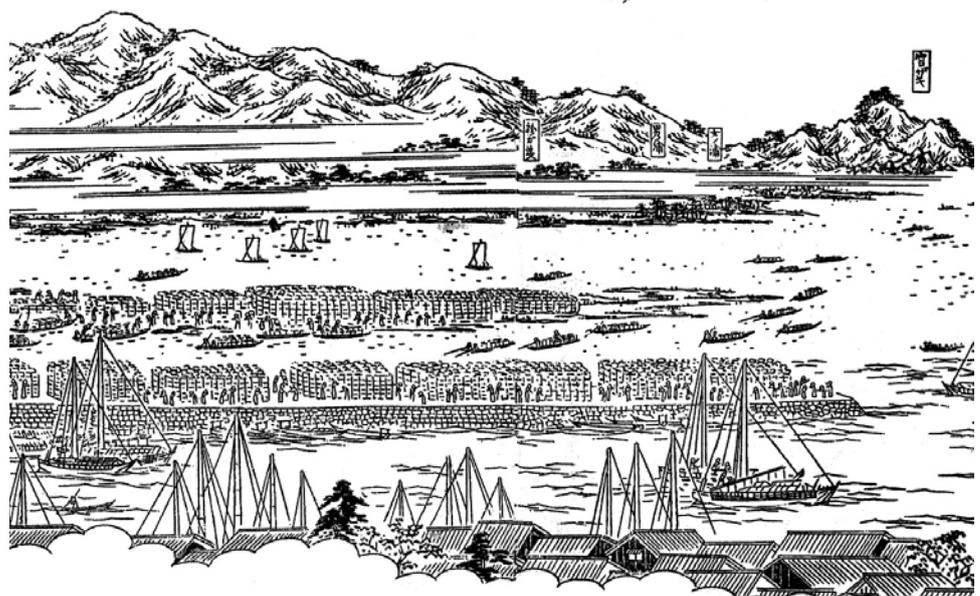
紀州藩では、木材・炭・うめなどの特産物は、御仕入方という役所が支配していたのですが、みかんは御勝手方という役所の下にみかん方を設けて保護し、統制もしていました。

江戸へ送られたみかんは、紀州みかん問屋の手で仲買人を通じて、江戸の人々に売りさばられました。有田のみかん組株から送られるみかんは、いつも決まった江戸問屋へ送られました。これを「定付組」といいます。その江戸問屋のところへ「定付組」の荷親に委託されて、みかんの到着、荷腐り状況、相場、販売状況を監視するため、有田から荷主代が派遣されてきました。

幕末になって、みかんの集荷と販売を御仕入方が直接支配し、利益をあげようとしたのですが、江戸みかん問屋の反対や、みかんを生産する農民の反対一揆によって取り止めになりました。

このように江戸と往来するみかん商人らによって江戸の文化が紀州の農村にも伝えられました。このとき、江戸で買い入れたと思われる書籍やめずらしいものが農家の土蔵で発見されることがあります。

北湊の海口本築出し  
あるは塘の上へ船中  
俵もとも福湊とる  
蜜柑船をこみのかく  
物よく果糖とてへ  
ども程録とるもれ海  
はのろふ元海人



北湊のみかんの出荷『紀伊国名所図会』